

みなと

今・むかし新聞

第8号

平成20年3月

古奥州(こおう)街道沿いの

歴史を探しました

今回は、古奥州街道と言われている街道沿いを「聖(せい)坂」から「二本榎」を経て「柘榴(じゅう)坂」まで歩きながら、先人が残した史跡あるいは伝承を紹介いたします。

「幕末の外交施設・済海寺」

港区内には、幕末に数多くの外交施設がありました。立地場所として「江戸城に近いこと」「海岸に近いこと」等が条件としてあったようです。その結果、今の港区内が選ばれたのでしょうか。例えば、麻布・善福寺が「アメリカ公使館」、東禅寺が「イギリス公使館」等です。

ここ済

海寺は、フランス公使館として利用されました。安政



六年(一八五九)八月十日にフランス領事館として設立し、その後公使館となりました。お寺には、「外国書願留(がくしゅう)」という古い本が残されており、当時のお寺の様子が細かく記載されています。この記録は、「有形文化財」の古記録として港区指定文化財になっております。大変興味深い内容がたくさん記述されていますので、一読してみられたらいかがでしょうか。

「三田台公園」

第一京浜国道の西側に連なる高台は、武蔵野台地の最東端です。ここから東には江戸湾が広がり、天気がよければ「房総半島」「三浦半島」がみられ眺望の良い場所でした。

この公園の一角に、縄文時代の復元住居があります。戦前からこの一帯には貝塚があるといわれてきました。



その後、開発計画が立てられたため、その前に発掘調査が昭和五十三年七月から一年半かけて実施されました。その結果、当時の様々な遺跡・遺物が発見されました。縄文・弥生時代の生活の痕跡を残した「貝層」や住居址などが見つかったのです。この「貝層」の一部を剥ぎ取り港区立港郷土資料館に展示しております。ここに築造された住居址の復元によって、古代人の生活の様子を知ることができます。

「高輪消防署二本榎出張所」

かつては、ここが「高輪消防署」でした。今は「高輪消防署二本榎出張所」になっております。



この建物は、昭和八年に建てられました。建物は、二階建て・鉄筋コンクリート

トです。コンクリートの主要部分と円筒形望楼によって構成されています。

モダニズム型ともいわれ、建築されたときからこの地域の「シンボル」として親しまれております。

現在の第一京浜国道の東側まで海でしたから、この望楼から見た景色は、大変良かったと思います。

「光福寺のゆうれい地蔵」

不思議な話が伝わっております。昭和六十年頃、港区内の伝承文化の聞き取り調査をしておりましたときに、高輪・光福寺に伝わる民話を聴く事ができました。

昔、毎日、夕暮れになると近くの「鈴屋」さんへ同じ時刻に「鈴」を買いに来る親子がおりました。しかも、天候にかかわらず「雨」の日でも来たそうです。鈴屋の主人も不思議がりました。どうして、毎日、しかも同じ時刻に鈴を買いに来るのか。鈴屋の主人は、ここで長年商売をしているため、地域の方々をほぼ知っております。ところが、この鈴を買いに来る親子については、まったく知りません。そこで、ある日、鈴を買って帰る時、二人に気づかれぬように、そいつと後を付いていきました。すると、光福寺の中に入り、墓地のそばのお地蔵様の辺りで姿が消えました。しかも、そのお地蔵様の前に鈴のつつみ紙が落ちていたそうです。鈴屋の主人は、びっくりしてしまいました。早速この話を光福寺の住職に伝えました。ある日、住職と鈴屋の主人がいつものように鈴を買いに来た親子の後をついていきましたところ、光福寺の墓地のそばで姿を見失いました。これを知って住職も驚きました。早速、住職は手厚く供養しましたところ、鈴を買いに来る「親子」の姿は現れなくなりました。

以来、このお地蔵様は、「子育て地蔵」として地域の方々から親しまれております。なお、港区教育委員会では、「有形民俗文化財」として登録しております

(清田 和美)



区内あちこちから

お台場(港南)



お台場はペリー艦隊が浦賀沖に現われて、強い姿勢で幕府に開国を求めてきた時(嘉永六年・一八五三)、江戸の町の鼻っ先までは黒船を侵入させまいと、夜を日に継いでの突貫工

事で築造された海上砲台場だ。翌年三月には「日米和親条約」が結ばれて、両者の間を砲弾が飛び交う事態にはならなかったが、それからの幕末激動時代の契機となったのだから大切な遺跡であろう。

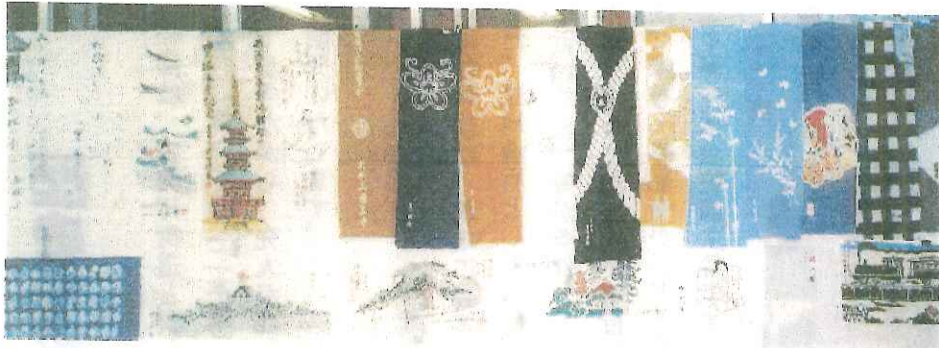
十一の台場を造る計画だったが完成したのは五つだけである。現在では埋め立てに飲み込まれたり、取り壊されたりで第三・第六台場が残るばかりで、しかも第三台場には道が敷かれ陸続きとなっている。行ってみると石垣・土塁がぐるりと四辺(一辺・百七十米位)を囲んでおり、内側は少年野球場ほどの凹地だが、雨宿りの屋根もない殺風景さだ。しかしそれがかえって、一塊(いっ)の土砂、一個の石も全部がもって担いで運ばれたもとの様子を想像させてくれていて良い。すぐ隣には巨大で機能的、しかも優美なレインボーブリッジが海をまたいで兩岸をつないでいる。まるで流行歌で聞いて覚えたサンフランシスコの金門橋(ゴールデンゲートブリッジ)のようだ。

災害にも見舞われた、手痛い失敗もあったがお台場できて百五十年の歳月をもつこを担いで土砂を運んだように、着実に積み上げた成果にちがいない、そう思うと頼もしい風景である。

(武 恒雄)

2007フェスティバルーン 語り部の会場盛り上がる

室内の壁面いっぱい、何十本もの「てぬぐい」が展示されている。歌舞伎、芝居、落語、寺社、祭り、おどり、小唄、町会、商店、学校記念、十二支、観光みやげ、全国を、港区を、見極められるような古き佳き「てぬぐい」に囲まれて、語り部の会が始められた。



最初に、昭和30年代の日本の家族、水上生活の家族の様子を撮影した映画を上映する。

次に「地図を持って歩いてみよう」

港区は歩いてみると史跡や武家屋敷が多くあり、町屋の人々の暮らしにしてもせまい横丁に入るといろいろ発見することができると、生涯学習センター長が豊富な話題を拡げ、皆さん街を歩いてくださいと勧める。

続いて、「低いトンネルをみつけれまし

写、芝小学校和芝浦小学校三年生の授業に招かれ、戦時中のことや、いろいろな昔の道具の使い方、七輪での火起こし、たらいやせんたく板を使つての洗濯など、実際にやっていると撮影したものです。それを見ながらお話をします。

そのあと、入場者の全員に「あやとり」のひもをお配りし、昔の遊びを体験してもらうことにしました。「東京タワー」作りです。前もって手順を示したプリントを配布。一手ずつやり方を説明する手に合わせて、皆さんが真剣に取り組んでいました。なかに、男の方で昔取った杵つかとばかりに鮮やかな手さばきでやっている方がいました。

最後は「てぬぐい」です。てぬぐいも全員にお渡ししているいろいろな扱い方を実際に試してもらいました。ほほかむり、ねじりはちまき、盗っ人かぶり、あねさんかぶり、そしておどりの時の扱いまで。てぬぐいはおふろに入るのに欠かせぬものでしたが、それ以外の応用も多彩です。おどりのふりを見て踊つてという声につられ、「南国土佐」の歌を全員が合唱するのに合わせて、ひとりの会員がてぬぐいの幾通りものしぐさを示しながらおどりました。

(廣畑 美恵)

小学校訪問記 その三 港区神応小学校 一年生

今年は一月早々から二月末までの間に訪問した学校は延べ6校に及びました。その皮切りが一月の十日で芝白金にある神応小学校。対象は一年生で担任の先生から生活科での学習のひとつとして、昔の子供たちの遊びについてというテーマでの依頼があり、それに応えて会員6名に港区生涯学習センター長も加わり学校へ出向きました。

遊び道具として、お正月ということもあり羽子板に羽根、双六、大棒カルタ、六角風、そのほかにお手玉、ビー玉、メンコ、おはじき、手まり、こま、ペーこま、けん玉、将棋の駒など、会員それぞれが自分の家にあ

った物を集め持参しました。

最初にそれぞれの遊び方について説明し、そのあとすぐに児童それぞれに興味を感じた物を選んで遊んで貰うことにしたのですが、どの遊びもあまりやったことがない者が多かったので共に遊びながら教えました。ゲーム時代の申し子たちにとってこの種の遊びはあまりにも単純すぎて歓迎されないのではないかと思っておりましたが、いざ始めてみるとどの遊びも大いに受けたのです。教室の中で羽根つきを始める児童までいたりしてその賑やかなことは想像以上。男子は男の子らしい遊び、女子は女の子らしい遊びを選ぶとは限らず、おはじきをする男の子がいるかと思えば、剣玉を手にする女の子がいる。

ひと通りいろいろな遊びを楽しんで貰ったあと、全員を3つのグループに分けて一斉に大棒カルタをする。取り方に児童それぞれの個性が現れ見えて興味深い。児童の張り切る様子が札の読み上げを担当した会員の声も一段と力がこもる。ひと通り終わったところでそれぞれが手にしたカルタの枚数を数えたのだが、もとより勝敗を競ったわけではないので、全員の健闘を祝う拍手をして終了。



最後はあやとり。用意していった紐をすべての児童に配り、ほうきの組み上げ方を指導する。真剣に取り組む姿が何ともほほえましい。ところで驚いたことに我々が知らない方法で瞬間的にほうきを作ってみせてくれた児童がいたのだ。

それも男の子。教えに行つた管の私たちが逆にその子から教わることになってしまったのであった。まさにカルタの中にあつた「負うた子に教えられ」そのものである。

あつという間に一時限の50分が過ぎる。終了時に『もつともつと遊んでたいと思う人は』と問いかけたら、全員が一斉に大きな声で『ハイ』

(井上 繁)



これは芝公園の一角にある御成門小学校の玄関脇に立つ記念碑です。この碑を見ると御成門小は平成三年周辺の小学校5校を統合し新設されたものであることがわかります。

小は新橋六丁目、桜小は西新橋二丁目、神明小は浜松町一丁目にありました。なお桜小は昭和三十九年に南桜小と虎ノ門一丁目にあった西桜小とが合併し生まれました。御成門小の真向かいに御成門中学校がありますが、そこには昭和二十三年まで愛宕小がありました。過去この地域には小学校がなんと7校もあったのです。小学校の数が多かっただけでなく、いずれの小学校も児童数も多く、中には千人を超える児童が学んでいた学校もありました。以前は中小商店・町工場・住宅等で構成されていたこの地域ですが、今やオフィス街へと変化したことで居住人口が極端に減少し、その結果小学校もこのように減ってしまったのです

(I)

生涯学習センター通信

今年のNHK大河ドラマは「天璋院篤姫」です。幕末から明治にかけて激動の時代を生きたひとりの女性を取り上げております。

篤姫は島津家のお姫様です。港区内には、薩摩藩島津家の屋敷が芝蒲田をはじめとして数多くありました。その場所は、現在、民間企業や住宅地となっています。

一月から二月にかけて、「語り部」は大活躍、小学校6校へ出かけ、子どもたちに「昔の遊び」を伝授しました。子どもたちには心から楽しんで貰えたようで好評でした。語り部の学習会は当センター二階の「さくらだ記念室」で毎月、第二・第四水曜日の午後二時から開催しております。関心ある方々の参加をお待ちしております。

(K)

問い合わせ 3431・1606
発行 平成二十年三月一日

港区立生涯学習センター